

平成29年度
第2回周南市まち・ひと・しごと創生戦略会議
会 議 録

日 時：平成29年8月18日（金）

場 所：周南市役所本館 第2応接室

【会 議 次 第】

1 開 会

2 議 事

(総合戦略) 推進施策に関する進捗状況の検証について

3 閉 会

《 配付資料 》

- ・ 第2回戦略会議次第
- ・ 目次と評価方法
- ・ 総合戦略に係る実施事業評価
- ・ 補足資料
- ・ 補足資料その2

第2回 周南市まち・ひと・しごと創生戦略会議 会議録

- 日 時 平成29年8月18日（金） 9時30分から
- 場 所 周南市役所本館 第2応接室
- 出席者 ・委員 9名
石川 英樹、河田 正樹、小松佐穂子、中川 明子、久野 耕一郎、
岡田 浩、細川 英樹、山根 耕太郎、柘村 実行
- ・事務局 5名、主要事業担当者
政策推進部企画課 課長 岩崎 達也、主幹 川口 洋司、
課長補佐 中村 貴子、企画担当係長 富永 将介、
副主任 通山 汐里、主要事業担当者（12名）
- 資 料 ・会議次第のとおり

会 議 議 事 録

1 開 会

2 議 事

（総合戦略）推進施策に関する進捗状況の検証について

- 会長 前回に引き続きまして、総合戦略に関する推進施策の進捗状況の検証を行います。
- まず、前回の質問事項に関する補足資料の説明を事務局にて行います。お願いいたします。
- ◇事務局 前回の会議の際、事務局にて準備が不足していた資料についてご説明します。お手元の「補足資料その2」です。
- まず、基本目標3の数値目標である転出超過数について、男性と女性の内訳の資料です。5歳刻みで男女の内訳を掲載しております。
- 続いて、転出の理由についてですが、平成27年の4月から約1年間、市民課の窓口等で任意でアンケートを実施しております。悉皆調査ではありませんが、傾向としてこの資料のような結果が出ております。
- 会長 ありがとうございます。委員の皆様、ご参照ください。
- それでは本日の議事に入ります。基本方針4の推進施策1から進めて参ります。事務局にて説明をお願いいたします。

【基本目標4の（1）についての議事】

- ◇事務局 ～基本目標4の（1）について説明～
- 会長 ありがとうございます。ご質問やご意見などお願いいたします。

- 副会長 新規出店数が予測より伸び悩んだ理由は、どのように推測されますか。
- ◇事務局 一つでも多くの空き店舗を埋めるために、商店街や商工会議所等と連携しながら空き店舗への誘致のための情報発信を積極的に行っていますが、目標値の達成には至っていないというところです。細かな要因については把握できておりません。
- 会長 他に質問はありますか。
- 委員 街なかの歩行者等通行量について減っている状況ですが、調査した日の要因や、人の流れが変わったなどの要因による減少でしょうか。それとも純粹に、歩行者量が減少したということでしょうか。
- ◇事務局 28年度の歩行者通行量ですが、減少した要因として、調査した当日の天候が雨だったという点が挙げられます。ただ、減少が多かった地点については後日再測定を行ったところ、26年度程度の実績値でした。よって通行量が激減しているわけではないと捉えております。また、地点によっては通行量が増加している地点もあります。
- 会長 その他いかがでしょうか。
- 委員 KPIの新規出店数については目標値を下回っているのに、主要事業の目標指標である空き店舗率については改善しているのはなぜでしょうか。
- ◇事務局 空き店舗率については、毎年10月、県において商店街の現況調査を行っています。この調査で対象としている空き店舗は、普段街なかを歩いている人が、シャッターが下りていると実感する、という部分に着目し、1階2階に限って空き店舗の状況を見ております。このため、ビルであっても2階部分で区切った状態で数字を計上しており、その結果、27年度よりも空き店舗率が減っています。
- 参考までに申し上げますと、28年度当時に市で調査したところ、総店舗数は406店舗あり、このうち空き店舗は79店舗でした。よって、実績については19.5%という数字を出しております。
- 委員 今、みなみ銀座の商店街の再開発を民間が計画しています。徳山商工会議所でも、商工会議所の移転を含めプレゼンをしてもらったところです。そういったところに、市も何らかの形で関わっているのでしょうか。
- ◇事務局 今のお話にありました再開発事業ですが、民間主導の事業ですので、商店街の動きという中で情報提供をいただいております。それに対する意見交換を行っています。今のところ、それ以上の取組みはありません。
- 委員 こういった再開発は、民も官もないと思います。民間で動きがありますので、ぜひ官としても積極的に関わった方がいいのではないのでしょうか。
- ◇事務局 おっしゃる通りです。市が民間と手を取って再開発に関わるとなると、計画を拝見した上で、市の協力が可能かどうかを検討することになります。その上

で都市計画決定を行ったり、国の補助が受けられるのか、といったことも含めて判断しながら、協力させていただくようになると思います。

◇事務局 民間の再開発事業の中で、駅前に思い描いていらっしゃるような施設が実現すると、中心市街地に賑わいをつくる面で非常に効果的だと思います。そういう意味で、市としても関心を持って見ております。ただ、計画を具現化していく過程の中では、行政において都市計画決定を行うという過程を経てから、具体的な市の関わりが発生してくるのではと考えております。

○会長 新規出店数について、出店ではなく閉店数についてはどういった状況でしょうか。具体的な数値は結構ですが、雰囲気だけでも教えていただけますか。

◇事務局 中心商店街の中における傾向としては、出店数と閉店数は概ね同程度の数字で推移しております。

○会長 できれば閉店数を抑えたいですね。他に質問はありますか。

●委員 来年、駅前の図書館が完成予定になっていますが、これにより、街なかの歩行者通行量の増加が見込まれると思います。人数としてはどのくらい見込んでいますか。

◇事務局 来年2月上旬に開館を予定している賑わい交流施設ですが、年間の来館者数は120万人を目標にしています。その賑わいをいかに中心市街地の方に波及させるかということが課題になっております。歩行者通行量については、資料に示している通り28,800人を目標としています。

○会長 基本目標の目標値は、賑わい交流施設の開館を見込んでいる数値なのですね。

◇事務局 そうです。

○会長 では評価についてですが、全般的に苦戦している様子があるのでBかCになるのではないのでしょうか。去年は様子を見るという意味でB評価にしていますが、実績値の数字も出揃っていますし、いかがでしょうか。

●委員 これから駅ビルもできますし、もう1年様子を見るというのはどうでしょうか。Cに近いBという意味で、B評価でいいと思います。

○会長 皆様いかがでしょうか。

●委員 (全員、異議なし)

○会長 ではB評価とします。続いて次の評価に入ります。

【基本目標4の(2)についての議事】

◇事務局 ～基本目標4の(2)について説明～

○会長 ではご質問やご意見などお願いいたします。

●委員 徳山動物園の入園者数について、28年度は減少していますが、27年度は「るんちやるんちゃ」の開園による一時的な増加であり、28年度は元に戻ったと考えられるのでしょうか。

◇事務局 28年度の入園者数について、中国・四国地方の動物園について総じて言え

ますが、原因として9月に雨が集中したことが挙げられます。徳山動物園については、28年9月の入園者数が前年同月の30%程度まで減っています。この部分が、全体の入園者数の減少に繋がっています。

もう一点ですが、今まで無料開園を行っていましたが、28年度は無料開園について見直しを行ったことも、入園者数が減少した原因だと考えております。

●委員 有料入園者数については分かりますか。

◇事務局 全体の入園者数は266,680人で、そのうち有料入園者数は139,372人です。全体の52.3%が有料入園者となっています。

●委員 27年度についてはいかがでしょうか。

◇事務局 27年度については、全体の入園者数が308,265人で、そのうち有料入園者数は154,416人の50.1%です。

また、入園者数が減少している理由の一つとして、今、動物園がリニューアルを行っている点も挙げられます。動物園の南側に新しいゾウ舎を建てるため、敷地の約5分の1が更地になっています。また10月1日に、北園で自然学習館、野鳥観察所という新しい建物ができます。よって、リニューアル事業の中で、今が最も工事中の敷地が大きい状況です。来園者に、工事をしているというイメージを与えやすい状況でもあります。しかし、その中でも行事を増やしたりマスコミに出るなど、話題を提供し、現在も「うんこ展」というものも開催しています。このように29年度もしっかり取り組んでいます。

○会長 主要事業の中のICT活用情報発信事業について、こういったことを今後行う予定ですか。

◇事務局 現在様々な業者の提案を受けたり、総務省の主催するICTの政策説明会など、情報収集と調査研究を行っています。現段階ではICTの活用方法について、具体的なイメージはできておりません。他自治体の活用事例についても、まだ年数が経過していないこともあり、効果を実証できていない部分もあります。その辺りも見定めつつ、具体的なイメージ作りから始めていきたいと考えています。

○会長 仮説などがあるわけではなく、漫然と情報収集を行っているのでしょうか。

◇事務局 そうです。その中で、たとえば賑わい交流施設や徳山動物園など、人が集まるところを始点として、次の市内の観光地に誘導できるようなシステムを構築できないかと検討しています。

●委員 主要事業の「市の強みを生かした新たなイベントの開催」について、29年秋の開催イベントについては決まっているのでしょうか。

◇事務局 11月3日に開催予定です。周南観光コンベンション協会が主管し、市や様々な組織が参加しながら作り上げている段階です。

●委員 スポーツイベントの開催について、何か検討していますか。

- ◇事務局 29年度は、県の自転車競技連盟と協力し、周南緑地にて自転車のクリテリウム大会の開催を予定しています。昨年度も実施しましたが、今年度は規模を拡大し、緑地公園の周回コースで競ってもらう大会を誘致したところです。
- 委員 29年1月にバドミントンS/Jリーグが麒麟ビバレッジで開催されますが、目標指標である「新たなイベント開催、誘致数」の中に含まれますか。
- ◇事務局 含んでいません。
- 委員 29年の夏に全日本大会をこちらで開催するということなので、年間観光客数に寄与できるのではと思います。相当の人が来るとしますので、それを活かす工夫をされてはどうでしょうか。
- 会長 ありがとうございます。他はいかがですか。
- 副会長 主要事業「国際観光推進事業」中の「戦略的な誘客活動の実施」について、28年度にどのような誘客活動を行ったのでしょうか。
- ◇事務局 台湾において市長のトップセールスを実施しました。また、台湾の旅行会社等の関係者をモニターツアーとして招聘し、実際に周南市内を見ていただき、周南市が台湾の人々にどのように受け入れられるか調査を行いました。
- 副会長 反応はいかがでしたか。
- ◇事務局 27年度に、台湾に関係のある方々に本市の観光素材についてヒアリングを行い、その結果を基に28年度のモニターツアーにおいて紹介しました。温泉や自然、漢陽寺や芝桜などに関心を示していました。
- 会長 ありがとうございます。では評価を行います。昨年度はC評価でしたが、進捗状況をふまえると評価を上げることは難しいと思われます。いかがでしょうか。
- 委員 昨年は見直しを行ってほしいということでC評価にしましたが、それを受けて変更を行った部分を教えてください。
- ◇事務局 昨年の評価の時点では、27年度に未実施の事業が多かったですが、28年度中に全ての事業において着手できている、という点が大きな変化です。特にICT活用情報発信事業については方向性が定まり、実際に事業が動き始めたところです。数字の面で変化が表れているという点と難しいのですが、一つずつ始められるものから着手していったという点が、昨年との大きな変化です。
- ◇事務局 主要事業の「温泉地域観光振興計画策定事業」について、計画は完成していませんが、三丘地区では地元の方々と協議を始めています。地域づくりにもつながる計画の策定をイメージしていますので、そのために地元の方々と協議を進めていきたいと考えています。
- 会長 ありがとうございます。評価について、D評価の抜本的な見直しまでは必要ないと思います。C評価でいかがでしょうか。
- 委員 昨年に比べて動き始めた事業が多いので、もう少し様子を見るという意味で、

B評価でいいと思います。

○会長 Bという見解が出ましたが、いかがでしょうか。

●委員 (全員、異議なし)

○会長 ではB評価といたします。続いて次の評価を行います。

【基本目標4の(3)についての議事】

◇事務局 ～基本目標4の(3)について説明～

○会長 ありがとうございます。28年度は27年度よりコンベンション参加人数が減っていますが、要因はありますか。

◇事務局 27年度の件数が特に多かったという点が挙げられます。

24年度からの推移をみると、コンベンション参加人数は着実に増加しています。27年度に、26年度の約55,000人から約83,000人まで増えている理由としては、27年度はコンベンションの開催件数が多く、特に県大会レベルのスポーツ大会が多かった点が挙げられます。このように、27年度が特に多かったので28年度は減少していますが、スタート時からみると順調に推移していると捉えています。

●委員 27年度の特異要因によるコンベンション参加人数の加算数を教えてください。

◇事務局 参加人数の加算数は把握しておりません。コンベンション開催件数でご説明しますと、県大会の件数が例年は年間約20件ですが、27年度は49件開催されています。

●委員 開催件数の説明だと分かりにくいですね。特異要因による加算人数が何人程度で、ベースの部分は何人程度、ということ把握しておかないと、特異要因を除いた妥当な水準が理解しにくいと思います。人数について把握できないのであれば、開催件数を目標指標に設定してはどうでしょうか。

◇事務局 昨年のご指摘の中にも、目標指標についてコンベンションの開催件数を設定してどうか、という意見がありました。開催件数や参加人数について、目標値が分かりやすくなるよう今後も検討いたします。

○会長 ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

○副会長 アクションプランについて、強化や充実、推進といった言葉が並んでいますが、実際に市で行っている内容を教えてください。具体的な誘致活動などは行っていますか。

また、コンベンションの開催件数について具体的に把握していますか。

◇事務局 誘致のために主催者となる団体を訪問し、周南市の説明を行っています。また、IME(国際ミーティングエキスポ)というコンベンションの総合展示会に、周南観光コンベンション協会と共に出展し、商談を行っています。

コンベンション開催件数については、問い合わせがあったものや、施設からの

情報提供によってある程度把握しています。ただ、ホテル等のホールを使ったコンベンションについては、民間の施設なので市への情報提供が難しいといった面があり、正確な数字について把握できていません。

- 委員 ホテルが情報提供を行わないのは、なぜですか。
- ◇事務局 個人情報の取扱いの観点などから、情報の提供は難しいということです。
- 委員 年間観光客数について、29年度は170万人まで増加の目標になっていますが、具体的な策はありますか。
- ◇事務局 市の強みを生かした新たなイベントの開催や、コンベンション協会においては、旅行業法の規定する旅行業の資格を取られて、自ら旅行企画を作成できるようになり、様々なツアーを組んでいます。また、コンベンションについても、来年度の誘致に向けた営業活動を行っています。そういった積み上げにより、目標値の達成を目指したいと考えています。
 特に今年は、9月から12月にかけてデスティネーションキャンペーンというJR主催の事業があり、期間中に多くの観光客を誘致するための活動を行っています。
- 委員 コンベンション参加人数について、会議のみでなく、文化会館で開催されたコンサートなどは含まれていますか。
- ◇事務局 含んでおりません。
- 委員 文化会館は交通網や立地もいいという点があり、有名なアーティストがコンサートを開催しており、広島や九州からも集客していると伺っています。集客面では有効な施設なので、文化会館の稼働率なども今後は参考にするといいと思います。
- 会長 コンベンション参加人数の目標値が達成されてなく、アクションプランに「強化」という言葉がありますが、営業活動やチラシの配布等の具体的な活動や、フィードバックを行ったりPDCAを回すなどの動きはありますか。
- ◇事務局 これまでは首都圏にある主催者団体に対して主に営業活動を行っていましたが、今後は西日本大会や中国大会などの規模を中心に、誘致活動を進めようと検討しています。そういった大会の主催団体は地方に支部があるので、29年度からは地方の支部を中心に誘致活動を行おうと考えています。
- ◇事務局 コンベンションについては、周南観光コンベンション協会と共に事業を進めており、コンベンション協会の役員や会員の方々には様々な方がいらっしゃいます。そういった様々な方面の関係者から情報提供を受けており、多種多様な情報収集を行っています。誘致活動を漠然と行うのではなく、集めた情報を基に、ある程度候補を絞った中で誘致を進めたいと考えています。
- 会長 活動内容も改善されつつあるということですね。
 では評価についてですが、前はC評価でした。今年度からの新しい動きが

あるわけではないので、評価を上げることは難しいと思います。いかがでしょうか。

●委員 昨年、コンベンションシティ推進事業が年間観光客数の増加にどれほど寄与しているか分からない、という理由からC評価でした。今年度はどうでしょうか。

●委員 観光客数は昨年より3万人増加していますが、主要事業やアクションプランによって増加した、ということが分かりづらいですね。ここに何らかの関連性があれば、評価しやすいと思います。

○副会長 皆様の意見を伺うと、他にも指標として加えられるものがあると思います。来年度はその指標を追加して評価を行う、という意味でC評価にしてはどうでしょうか。

◇事務局 先ほども指標にコンベンションの件数を追加する、という意見もありましたので、目標指標については今後も検討の必要があると考えています。

●委員 スポーツの大会で周南市に来た選手や観光客が、大会の施設から別の観光施設に流れるよう、旅行会社等と連携して具体的な活動を行うことが必要だと思います。もっと分かりやすく単純な企画があるといいのではないのでしょうか。また、観光客だけではなく、周南市民も気軽に観光施設に行けるような活動を行うといいと思います。

◇事務局 その点も含め、来年に向けて指標を再度検討していきたいと考えています。

○会長 ありがとうございます。評価についてはC評価でよろしいでしょうか。

●委員 (全員、異議なし)

○会長 ではC評価といたします。続いて次の審議に入ります。

【基本目標5の(1)についての議事】

◇事務局 ～基本目標5の(1)について説明～

○会長 ありがとうございます。主要事業「水素利活用推進事業」のアクションプランに「啓発」とありますが、どういった活動を行っているのでしょうか。

◇事務局 28年度は、水素関連施設の視察に千数百名来ていただきました。

○会長 来られたのは主に小・中学校でしょうか。

◇事務局 市内だと10校程度の小・中学校が見学に来ています。また市外の方や、市議会や行政の関係者、民間企業といった様々な方が来られています。

●委員 市外の方が来られるということは、周南市の水素関連施設は、他の市町村にはないような有名なものなのではないでしょうか。

◇事務局 そうです。水素に関しては、全国的にみても最先端なものを行っています。視察に来てもらうだけでなく、こちらから東京や北海道に講演に行き、周南市の取組みについてお話ししています。

●委員 こちらから広報するだけでなく、実際に市外から来ていただけるということ

は、全国的に周知のものになりつつあるということですね。

◇事務局 そのように考えています。

●委員 燃料電池自動車・水素自動車の登録台数が年間8台増えていますね。内訳について教えてください。

◇事務局 燃料電池ごみ収集車1台、フォークリフト2台、それ以外が燃料電池自動車です。

●委員 個人の所有でしょうか。

◇事務局 個人の所有もありますが、会社での購入が多いです。

●委員 個人の購入はまだ少ないのでしょうか。

◇事務局 そうです。

◇事務局 事務局の資料では、個人は5台、事業者6台の所有です。市と県の公用車や、ディーラーでの所有もあります。一般市民への普及の面では、現在厳しい状況です。

●委員 小・中学校の普及啓発について、子どもたちに周南市に誇りを持ってもらうためには、小さいころから「周南市は水素がすごいんだよ」ということを教えていく必要があります。そのためには学校に売り込んで活動していく必要があると思いますが、いかがでしょうか。

◇事務局 我々も同様に考えています。まずは教育委員会や校長会などを通じてPRを行い、また漫画の水素のパンフレットを作成し、昨年度から全ての中学3年生に配布する取組みも始めています。パンフレットについては、地元の産業である化学コンビナートで様々なものを製造しており、その副産物として水素ができる、というように、ストーリー仕立てで説明しています。

●委員 誰でも鑑賞できるようなDVDはありますか。

◇事務局 CCSで毎年3月に動画で放映していますので、視察の際にご紹介しています。

◇事務局 市のホームページで閲覧可能かどうか、確認しておきます。

●委員 学校からの反応はいかがでしょうか。

◇事務局 昨年度申込みのなかった学校からも新たに見学の申し込みがあり、またこちらから見学に来ていただくようお願いした学校についても、引き続き来てもらっています。一度来てもらった学校からは、非常に良い評判をいただいています。

また、内容についてですが、小学生に向けて水素の話をするというのは非常に難しく、学校の先生方からフィードバックを受けながら、子どもたちに分かりやすく説明できるよう我々も勉強中です。

●委員 説明の仕方なども勉強されているのですね。

◇事務局 そうです。また、子どもたちへの説明についても市の職員でできればいいの

ですが、市の職員のOBの方で、子ども向けに環境の話をされていた人がいます。現在はその方をお願いしています。

- ◇事務局 先ほどの動画のお話ですが、市のホームページには現在掲載しておりません。
- ◇事務局 CCSでも放映が終了すると、動画の掲載は行っていないと思います。
- 副会長 動画投稿サイトで閲覧できるようにするのは難しいでしょうか。
- ◇事務局 何らかの形で動画を掲載できればと考えています。
- 委員 子どもたちへの啓発活動も非常に大切だと思います。ただ、燃料電池自動車や水素自動車について、現在は個人で登録することが難しい状況ですよね。28年度の登録台数は8台で、29年度は40台、30年度は80台の登録を目標としています。そうになると、実際に購入できる層、たとえば法人に対して、重点的にPR活動を行っていく必要があるのではないのでしょうか。
- ◇事務局 事業者とのお話の際にPRするよう努めていますが、車両の価格が高いということもあり、購入に至っていないのが現実です。
- 委員 車両価格が下がる見通しは当面ないのでしょうか。
- ◇事務局 国が作成している普及に向けたロードマップには、2025年頃には価格の下がった車を走らせる、という目標が上がっています。
- 会長 登録台数の目標値というのは、国のロードマップに従って設定したということですね。
- ◇事務局 そうです。国の見込み通り普及するとすれば、本市ではこのくらいの数売ってほしいという目標値の設定になりました。しかし、現在は国の見込み通りに進んでいませんので、難しいと考えています。
- 委員 もちろん普及活動は大切ですし、推進施策でもある「電解コンビナート資源を生かしたまちづくりの推進」は決して間違いではないと思います。ただ、水素自動車にこだわるとうまくいかないのでは、というのが私の見解です。
- 副会長 燃料電池そのものについてはKPIに加えられないのでしょうか。たとえばエネファームについて、今は都市ガスを分解して水素を作っていますが、そこに直接水素を持って行く、ということは難しいのでしょうか。
- ◇事務局 今おっしゃられたのは純水素の燃料電池といわれるもので、都市ガスを燃料とするものではなく、水素そのものを燃料電池に供給し、電気とお湯を作るといったものです。これについては山口県が補助金を出して実証しており、その実証フィールドとして、周南市で行っています。小型機から100キロワットの大機まで、東芝が独自に開発したものを、地方卸売市場と株式会社トクヤマにて使用しています。これも同様に価格が高いということがあり、全国的に普及するのはまだ難しい状況です。
- 会長 自動車での活用が難しいということになると、もう一つの主要事業の地域エネルギー導入促進事業が大事になってくると思います。28年度までに構想の

策定が完了する予定でしたが、いかがでしょうか。

◇事務局 構想については28年度に策定し、市のホームページでも公開しています。現在は、市役所新庁舎と駅前賑わい交流施設への電力供給のため、設備工事を行っている状況です。

○会長 目標値について、30年度2件、31年度3件となっていますが、順調に進んでいるのでしょうか。

◇事務局 はい。30年度の2件の内訳は、市役所新庁舎と駅前賑わい交流施設のことで、間違いなく達成できると考えています。31年度中に、ひととしごとを呼び込めるような施設をもう一つ誘致し、そこに供給できればと考え、累計3件としています。

○会長 では評価について、前回A評価ですが、自動車関連の話もありますのでA評価は難しいと思います。水素技術実証事業や地域エネルギー導入促進事業の状況も含め、B評価でいかがでしょうか。

●委員 (全員、異議なし)

○会長 ではB評価といたします。続いて次の評価に入ります。

【基本目標5の(2)についての議事】

◇事務局 ～基本目標5の(2)について説明～

○会長 ありがとうございます。主要事業の「公共交通ネットワーク形成事業」について、公共交通網に関する検討が完了したということですが、状況はいかがでしょうか。具体的には、バスの路線の見直しなどを行っているのでしょうか。

◇事務局 こちらは、地域公共交通網形成計画に従い、地域公共交通再編実施計画を策定する、というスケジュールで掲載しています。地域公共交通網形成計画は交通のマスタープランの位置付けであり、こちらは28年3月に策定が完了しております。それに従い、地域公共交通再編実施計画は実行計画として策定する予定ですが、交通事業者や地域の方々に丁寧な説明をしながら進めているところであり、28年度中の策定とはならず、29年度中の策定を目指しています。

○会長 交通事業者との協力も必要だとは思いますが、見通しについてはいかがでしょうか。

◇事務局 バス事業者にとって、利用者の減少や運転手の不足が深刻な問題になっています。そういった中で、残すべき路線や、運行中の路線の濃淡について明確にする再編を希望されています。市の施策と連携し、どういった形をとるべきか、現在模索中です。

○副会長 中心市街地の居住人口が増加していますが、要因は何でしょうか。

◇事務局 長い期間で見ると、10年以上、6,000人あたりを横ばいで推移しています。高齢者が増加する中で人口減少になっていきますが、中心市街地にはマンションが建設されるので、世帯数や人口が増加しているということが要因の

一つです。また、中心市街地に長く住んでいる方々について相続が発生し、土地を売ることで宅地化したり、商業的に利用されていた土地が住居に変わるといった傾向があり、そういった要因で中心市街地の人口が横ばい、もしくは若干増えているのではと考えています。

●委員 中心市街地とはどのあたりのことでしょうか。

◇事務局 K P I という中心市街地の範囲は、国から認定を受けた中心市街地活性化基本計画の区域です。具体的には南は港、東は東川、北は総合庁舎、西は代々木公園のところまでで、その区域を含む住所地の人口です。

●委員 中心市街地に住む人は、増えた方がいいのでしょうか。

◇事務局 かつて中心市街地は、ここは商業用途、ここはオフィス街というように、ゾーニングして考えられていました。近年、店舗や住宅が郊外化し、住民のライフスタイルも変化しており、街なか空洞化してきています。商業だけ、住宅だけ、といったように用途を分けるのではなく、複合利用していくことが今後は大切だと考えています。複合利用によってまちに人が住むことで活動が生まれ、買物もし、飲食もするなど、まちに賑わいが生まれると考えます。まちに人が住むということは、コンパクト・プラス・ネットワークの考え方からすると、まちの活性化にとって非常に有効だと考えています。

●委員 ある程度は居住が必要だということですね。

◇事務局 そうです。完全に居住地になって、福祉、商業などの都市機能が衰退してしまうと人が集まりにくくなってしまいますので、特に交通結節点においてはうまく混ざっていくように、都市全体にとって使いやすい拠点になればと考えます。K P I の6, 0 0 0人という数字は、まちづくり総合計画で定めたもので、現状の人口密度を維持していくという意味で設定しています。

●委員 特に高齢者には、交通の便が無いからまちなかに住む、という考えがあると思います。コンパクトとネットワークを両立させるのは非常に難しいのではないのでしょうか。

◇事務局 いわゆる交通弱者にとって、できれば医療や商業施設のある拠点に住みたい、と考えるのが、一つの暮らし方だと思います。ただ周南市全体でみたときに、都市計画マスタープランで都市拠点と定める徳山駅周辺、新南陽駅周辺、熊毛や鹿野、須々万のようなそれぞれの拠点に住んでいただきたい。しかし、そこに全ての機能が揃っているわけではないので、それぞれの拠点を路線バスや鉄道で結び、それぞれの拠点の役割に応じて住民の方に選択してもらえることが大切だと考えています。そういった意味で、コンパクトとネットワークは両立していくと考えています。

○会長 では評価についてですが、前はBでした。主要事業は目標値を下回っていますが、中心市街地の居住人口については順調に推移していますね。そういっ

た意味ではB評価だと思いますがいかがですか。

●委員 (全員、異議なし)

○会長 ではB評価といたします。続いて次の評価を行います。

【基本目標5の(3)についての議事】

◇事務局 ～基本目標5の(3)について説明～

○会長 ありがとうございます。ご質問やご意見をお願いします。

○副会長 K P Iの「新たな地域の拠点施設」について、31年度は3という目標値ですが具体的な地域名を教えてください。

◇事務局 大道理地区、長穂地区、和田地区です。

●委員 昨年の会議では、長穂地区と和田地区について話し合いを進めており、ハード面では31年度目標ということでしたが、その進捗についてはいかがでしょうか。

◇事務局 長穂地区については、設計に向けて動き始めています。和田地区については、施設の機能等についての話し合いを本年度から進めています。31年度までには形が見えてくると考えています。

○会長 では評価について、現状としては状況を見守るしかないと思います。昨年のA評価から評価を下げるような要因はないですし、期待込みで今年もA評価でいかがでしょうか。

○副会長 K P Iについて、現在は新たな地域の拠点施設数のみですが、ここに中山間地域の人口を加えることはできますか。人口数の変化によって、中山間地域の持続可能性が直接的に判断できると思うのですが、いかがでしょうか。

◇事務局 おっしゃるように、人口も一つの指標になると考えます。ただ、我々としては、地域の夢プラン、地域の計画づくりに重点を置いています。将来的にどんな地域にしていくか、そのために何をすべきか、ということを経験の方々に主体的に考えてもらい、その上で計画を策定し実践してもらおうということが、中山間地域の持続可能性に繋がっていくと考えています。よって人口ではなく、地域の方々が主体的に行動できるための拠点施設数を指標に設定しています。

○副会長 たしかに拠点数も大切だと思いますが、中山間地域の人口を指標とすることで、人口がたとえ増加しなくても減少はしていない、ということが分かればいいのではないのでしょうか。人口に比べると、現在の指標は直接的な判断材料になりにくいのでは、と考えます。

◇事務局 市としても国としても、人口は大きく減少傾向にあります。特に中山間地域ではその傾向が顕著に現れており、様々な取組みによって少しでも減少を緩やかにしていこうとするのがこの計画です。減少していく人口を指標にするのは難しい、というのが、我々の正直な判断です。ただ、直接的に判断しやすい指標について、再検討していく必要があると思います。

○会長 指標の再検討は必要かもしれませんね。そういったことをふまえると、B評価でいかがでしょうか。

●委員 (全員、異議なし)

○会長 ではB評価といたします。

3 閉会

○会長 全ての議事が終了しました。全体を通して何かご意見ございますか。

●委員 基本目標と、KPIや主要事業、アクションプランの関連性を判断することが難しいと感じました。主要事業やアクションプランについて、本来の目標である人口維持にどれだけ寄与しているのか分かりにくいということが多々ありました。次回は、参考資料としてでも、分かりやすい指標や数字を挙げていただければと思います。

◇事務局 昨年の評価の際も、参考資料として補助データがほしいという意見がありました。よって今年の会議では、全ての補助データを詳しく示すことは難しかったのですが、各担当職員が出席し、考え方などを明確にお伝えし、委員の皆様が評価してもらいやすいように工夫を行いました。今後も委員の皆様が評価しやすい資料をご提示できるよう、より一層工夫をしていきたいと考えます。

○会長 ありがとうございます。では進行を事務局にお返しいたします。

◇事務局 長時間にわたり、ご審議いただきありがとうございました。前回と今回の会議でいただいたご意見については、事務局で整理を行い、議事録として皆様に配布いたします。議事録の確認につきましては、会長と副会長にお願いしたいと思っております。皆様よろしいでしょうか。

●委員 (全員、異議なし)

◇事務局 それでは、本日の会議が本年度最後の会議となりますので、企画課長の岩崎よりご挨拶を申し上げます。

◇企画課長 皆さま、大変お疲れ様でした。委員の皆様につきましては、お忙しい中2日間にわたりご審議いただき、ありがとうございました。限られた時間の中で様々な施策や事業に対する評価・検証を行うのは、難しいところもあったかと思っております。そういった中でも、的確な評価、また貴重なご意見をいただきました。議事の内容については整理の上、公表いたします。頂戴したご意見につきましては、主要事業やアクションプランなどの見直し、また総合戦略の修正等に生かしていきたいと考えております。

本年度の会議は本日で終了しますが、総合戦略については平成31年度まで取り組む計画になっております。引き続き、皆様のご協力をお願いいたします。本日は大変ありがとうございました。

◇事務局 以上をもちまして、「第2回 周南市まち・ひと・しごと創生戦略会議」を終了いたします。ありがとうございました。